

## 浅川 一雄さんの手記

30年. 天国の幸子へ

幸子、事件後間もない頃の話をするね。幸子は優しく、気を遣う子だったね。思い出す事は私達の子供に誕生日等、何かあると必ずお祝いをしてくれたね。特に事件の前日には、長男のランドセルをプレゼントしてもらったね。その後、みんなで夕食を食べた。何気ない事だけど楽しかった。そしてその翌日、あの忌まわしい事件に巻き込まれた。あなたは心肺停止で発見され二人のレスキューの方に蘇生していただいたんだ。事件当日、病院には被害を受けた人達が診察室に入る事も出来ず、あちこちにて大変だった。幸子は救命医療センターにいてすぐに会えなかったんだ。家族みんなが揃ったのは夕方くらいだったかな。やっと会える許可が出て一番奥の部屋へ通され、二重扉を開け幸子を見ると体中いろいろな管をつけられ、酸素マスクをつけていたんだ。大丈夫だろうか?不安でたまらなかった。幸子に触れようとしたら看護師さんに「さわらないでください。痙攣がひどく眠っている状態です。」と言われた。お兄ちゃんあなたの耳元で「お兄ちゃん来たから心配しないで。安心して。」って言った。幸子は何の反応も無かった。とても辛かった。お兄ちゃん、幸子の事が心配で命だけでも助かってと祈っていた。何で幸子がこんなことに。ただ電車に乗っていただけなのに…。悔しい。

それから数日後、お医者さんから「幸子さんは一生寝たきりになるでしょう。」と言われた。その時お母さんが「幸子あの時死んでればよかった。そうすればみんなに迷惑かける事はなかった。」って言ったんだ。お兄ちゃん達は「幸子は命は助かった。神様が生かしてくれたんだ。そんな事言うのはやめよう。」と話したんだ。親が自分の子供に対して、そんな事を言わせるなんて。犯人を憎んでしまった。幸子には辛い話だね。ごめんね。

それから幸子がんばって転院を2回したんだ。その間には外出許可を貰い自宅に帰ってきたことがあった。お兄ちゃんがオムツを替えようとする時、幸子は頑なに足を組み、オムツを替える事が出来なかった。お兄ちゃんの奥さんがやるとやっと許してくれた。やっぱり兄妹では嫌だったんだな。入院中にはお兄ちゃん達に「迷惑かけてごめん。」って言った事あったよね。迷惑なんて思ってもいないのに…。でも幸子の優しい気持ち辛かったけれど嬉しかった。意思の疎通も少しできるようになったね。でもお兄ちゃん、幸子の言う事が分からなかった時「もういいよ。」なんて怒られた事も随分あった。車いすに乗って散歩もしたね。甥っ子、姪っ子が「自分が押す。」なんて幸子の取り合いになった事もあったんだよ。その時幸子は笑っていたよね。その笑顔に家族みんなが助けられた。応援しているお兄ちゃん達が幸子から力をもらったんだ。やっぱり笑顔はいいなあ。ありがとう。随分長くなってしまったね。また、機会があったらお話ししようね。

信者の方へ

30年経っても昨日のように思い出してしまいます。この私の気持ち分かりますか。

家族でみんなで食事をしたり、遊んだりこのような日常を奪った事件に携わっている団体、信者の皆さん、自分が関わっているものがどういうものなのか見直してください。人に迷惑をかけるような宗教はないと思います。信仰している皆さん、信者ではない人と話したり、意見をきいてください。話すことにより自分の考えがわかる時があります。

悲しい事、嫌な事、泣き出したい事、辛い思い、憂鬱な気分、このような事がないと人は成長できないものです。そして、同じような事を繰り返さない社会にしていきましょう。加害者の家族の方達も辛い思いをしていると思います。

私は様々な被害を受けた人たちが救われる仕組み、ルールが必要だと思えます。経済面の援助、被害者本人、被害者家族の心のケア、フォローしてもらえる法律ができることを望みます。

(2024年10月記)

[過去の手記はこちら](#)